

すだれ

簾になごむ夏の風流暮らし

ながれ

岡田 精一郎 (おかだ せいいちろう / 特定非営利活動法人マングローバル 代表理事)

新型コロナウイルスの影響で在宅勤務へと移行してから外出機会が減り、今までに無い家で巣籠もる生活を経験した。新しい日常と向き合いながら快適に過ごす第一歩として、仕事部屋を隠れ家のような居心地の良い空間に変えようと梅雨明けに模様替えを試みた。

そこで注目したのが昔ながらの味わいある風情や和の寛ぎを与えてくれる簾(すだれ)であった。簾は日本古来から風を通し景色も楽しめる日除けとして人々に親しまれ続け、私が以前乗車した九州新幹線つばめ号の車内窓では簾が備わり感動した思い出もある。簾の原料は竹、葦(ヨシ)、蒲(ガマ)の芯が使われこれを横一列にして紐糸で編み上げた様式美ある伝統工芸品だ。一方で、簾よりも仕立ての大きい立掛け用は葦簀(よしず)と呼ばれ海水浴場や露天風呂で馴染み深い。

久し振りに雑貨店へと足を伸ばし夏物売場で陳列されていた天然葦製の定番簾を10個購入した。店には燻し焼きにした香り放つ簾のほか、消臭・抗菌効果のある備長炭粉末を素材に配合した品も取り揃えており、最近では百円均一でも売られていてお財布に優しい。



窓際から風流演出

簾自体は取り付けに専門知識を必要とせず賃貸物件でも導入が簡単で、今回の設置方法は内掛式で作業した。手順はカーテン生地を外して、簾上部の凹みに専用金具を差し込みそのままカーテンレールに引っ掛けるだけ。

数分で家の雰囲気は様変わりし秘密基地のように特別な安心感に包まれた。簾にしてからは木漏れ日のような優しい光が朝の目覚めを良くしてくれ、換気する際も室内は目隠しされた状態でありながら簾の透かし部分から新鮮な空気が吹き抜ける為、体感温度は2℃ほど涼しく感じられ仕事も集中できそうだ。

緑が宿る箱庭水景

模様替えしていくうちに深緑の恋しさから溪流植物を添えたいと意識し、造形美を創る苔・シダ類を水晶鉢に植えつけて小さな流木も一緒に飾った。特にシダ類は半日陰を好んで育つ習性の為、簾の遮光環境で栽培すると葉焼けすることが無く1週間ほどで美しい葉を次々展開してくれた。生長とともに自然が与えてくれる命のささやきに愛が育まれた。

粋な伝統装飾と心

最後は簾部屋の彩りを一層引き立てるため江戸風鈴を軒先に吊り下げ、硝子細工を床の間に配置すると清涼感あふれた透き通る夏の風物詩が息づいた。こうして風流と寄り添う暮らしに転換させた事で心身ともに健康的に過ごせるようになり、今まで忘れかけていた純粋な遊び心や創意を活かし続ける大切さも気づかせてくれた、そんな情趣の夏だった…